

2025年度北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究成果報告書

1. 研究類型 B) 研究集会開催支援型

2. 研究課題名 民間企業において活用されている汎用 AI サービスの教育的利用の可能性

3. 研究期間 2025年7月18日 ～ 2026年3月31日

4. 研究代表者

氏 名	所属機関・部局名	職 名	備 考
新谷 洋介	金沢星稜大学・人間科学部	教授	

5. 研究分担者

氏 名	所属機関・部局名	職名・学年	備 考
田邊 鉄	北海道大学 情報基盤センター	准教授	
佐藤 雅一	星槎道都大学・経営学部	講師	

6. 共同研究の成果

(1) 研究目的

研究代表者は北海道の教員から構成される任意団体（北海道特別支援教育 ICT 活用 PJ）において平成 20 年度から継続して研究会を開催し道内外の専門家とも交流がある。そして、昨年度は、生成 AI サービスを主軸のテーマに、「適切なライセンスや利用に留意した生成 AI の教育利用」に関する研修会を開催した（北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究 2024）。

生成 AI のサービスが開始され、教育においても先進的な利用がされ始めている。また、文部科学省から、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関するガイドライン（令和 6 年 12 月 26 日）」が出され、生成 AI サービス上の校務や学習活動で利活用する場面等が述べられている。しかし、民間企業における AI サービスの利用に比べ、教育においては、AI サービスの製品の種類や数、実践等は、発展途上の状況である。

そこで、本研究では、AI 技術の発展により一般企業における AI の導入が急激に進み、AI サービスの開発も進んでいる状況であることを踏まえ、民間企業で導入されている汎用 AI サービスの情報を得ることや情報交換をする研修会を開催し、教育的利用の可能性を探る場を設定することを目的とした。

(2) 研究計画・方法

本研究では、「民間企業において活用されている汎用 AI サービスの教育的利用の可能性」を課題として、特に「汎用 AI サービス」に着目した。汎用 AI サービス提供企業からの情報収集を行い、校務利用、学習利用に関連するサービスを収集する。汎用 AI サービスの情報収集の内容をもとに、手書き資料のデジタル化や、学習させたエージェント、画像分析等の観点を得て、情報提供いただく内容を決定していく。そして、民間企業において活用されている汎用 AI サービスの教育的利用の可能性について、民間企業で導入されている汎用 AI サービスの情報を得ることや情報交換をする場としての研究集会を開催する。

(3) 成果

「生成 AI の教育利用に関する研修会～民間企業において活用されている汎用 AI サービスの教育的利用の可能性～」をテーマに、2026 年 2 月 15 日（日）13:00-17:00 に、北海道大学国際広報メディア・観光学院 4 階 407 会議室にて研究集会を実施した。

研究集会では、分担者により、様々な視点からの生成 AI に関する報告を行った。

パネルディスカッションでは、「汎用 AI サービスの教育的利用の可能性」をテーマに、「汎用 AI サービス」提供企業 3 社、「教育現場」より、小学校や特別支援学校の教員 3 名、「企業（生成 AI 利用側）より 1 社に登壇いただき、資料を音声付き動画化する、統合コミュニケーションツール、AI が相手を演じるツール等の様々な一般企業等で利用されている汎用 AI の紹介や企業の生成 AI 利用の情報を受け、教育現場がどのように活用できるかを議論した。

このことで、教育利用の新たな視点を創造することや、民間企業向けの汎用 AI サービスの開発において教育的視点の情報共有ができた。

なお、2025 年度の研究集会同様に、一部の報告はオンデマンド視聴をできるようにしている。



「生成 AI の教育利用に関する研修会～民間企業において活用されている汎用 AI サービスの教育的利用の可能性～」(2026 年 2 月 15 日（日）北海道大学国際広報メディア・観光学院 4 階 407 会議室)